

授業の手引き「生物基礎」(18年度 大野担当)

I 授業の理念・方針

教育理念 (一番大切にしたいこと)

誰もが生きやすい社会

(=I' m OK. You' re OK.)

※「生き辛さ」とは何か? どうすればそれは軽減できるか?

教育活動の方針

●他律から自律へ

- ・安心・安全な場作り
- ・責任の移行
- ・メタ認知 (振り返り)
- ・クリティカル・シンキング (本質の見極め)

●人生を楽しめるものに

- ・学び方を学ぶ (探究の過程)
- ・学問の面白さ (教養的知識)
- ・創造性

●多様性の認識・受容・活用

- ・他者との対話と相互依存

II 人生で大切にしてほしいこと

- 「信念・軸」「謙虚さ」「折り合い」を大切にする。
- 「人に頼る能力」を身に付け、相互依存的な関係を大切にする。
- 失敗を恐れない。失敗と振り返りを大切にする。
- 「自分の目で見て、自分の頭で考える」ことを大切にする。
- 対話・読書・旅を大切にする。
- ユニークで、クリエイティブなことに取り組む。
- 摩擦を恐れない、摩擦を大切にする。
- 生産的、建設的な「議論」を大切に (破壊的批判ではなく建設的批判を)。
- 関わる人の「面白さ」を引出し、生かす。

III 授業のルール

- ノートもしくはファイルを用意し、「学習の記録」を残す (提出あり)。
- 私語、内職 (生物の学習以外のこと)、スマホの私的利用等は禁止 (「目的」を意識した活動を行う)
- チャイムが鳴ったら「学び」の時間。
- 誰もが過ごしやすい学びの環境作りに自分なりの形で貢献する。
- 提出物は期限を守って提出する。

IV 授業で挑戦してほしいこと

- ①人に聞く、人に説明する
- ②自分の目で見て、自分の頭で考える
- ③目的意識を持って PDCA サイクルを回す
- ④皆が皆の面白さを知り、生かす

V 「生物基礎」という科目で伝えたいこと（②授業で目指したいこと）

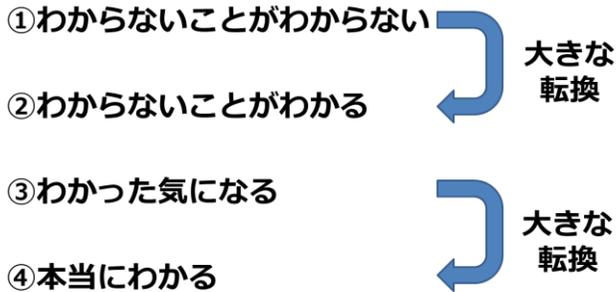
「生き物ってすごい！」という感覚、感動。

Study nature, not books (レイ・アガシー)

The Sense of Wonder (レイチェル・カーソン)

「自分の目で見て自分の頭で考える」と「自分の心で感じる」ことを大切に

理解の4段階



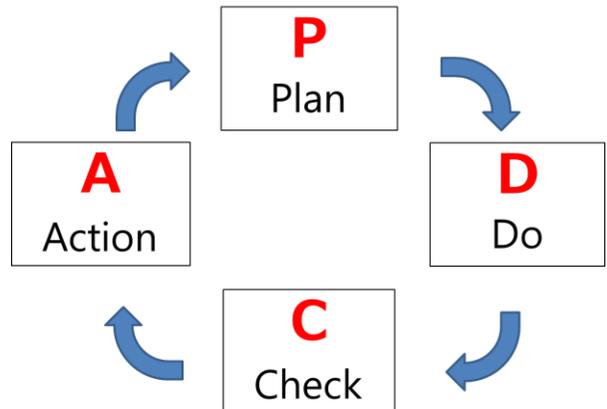
「わかる」ために必要なこと

- 「わからないこと」はまず自分で考えてみる。
- それでもわからなければ、人に助けを求める（「教えて」と言える能力）。
- 自分が「わかった」と思ったことは、積極的に人に教える。

クリティカルシンキングとは

自分の目で見て、自分の頭で考える

- 自分の目で見る
= 鵜呑みにしない「つつこみ力」
- 自分の頭で考える
= 納得解へのプロセス



「学校」「授業」の価値

ネットで知識を獲得できる時代

「知」は開かれ、一部の人間が独占する時代は終わった
では、学校の意味は??

大野の考えていること

「集団で、同じ時間と空間を共有する」

= 学校、授業で得られる最大の価値

※「大学の価値」は何か?

多様性と共生

• 「ふつう」はどこにもない

※「ふつう」は「異質」を排除する

• 「正しさ」はどこにもない

※「正しさ」は「正しくないもの」を排除する

「みんなちがって、みんないい」

= 皆が皆を面白がれる集団

大野のHP

<http://biologymanabiai.jimdo.com/>

授業に関するコンテンツや、役に立つリンク集などがあります。活用してください。

